

クラウドクレジット・ファンディング合同会社

2022年10月28日

【円建て】ユーラシアオンライン金融事業者ファンド9~25号 【ロシアルーブル建て】ユーラシアオンライン金融事業者ファンド9~28号 【ユーロ建て】ユーラシアオンライン金融事業者ファンド1号~3号 の運用状況につきまして (2022年10月期)

投資家のみなさまにおかれましては、平素より格別のお引立てを賜り誠にありがとうございます。

掲題のファンドシリーズ各号（以下、「本ファンドシリーズ」といいます。）につきまして運用状況をご報告申し上げます。

【本レポートの要旨】

<本ファンドシリーズの現状>

ロシア軍のウクライナ侵攻開始から約8か月が経過した現時点でも、特にロシア政府およびロシア中央銀行による送金規制の影響で、返済開始時期の見通しが立っていません。

<LIME社グループの状況>

本ファンドシリーズの貸付先であるLIME社グループ（後述）は、2022年2月当初の想定よりもロシアのマクロ経済環境の悪化が深刻でなかったことから、徐々に個人向けの融資の実行額を回復させ事業を継続しています。一方で、今後の戦局や経済制裁の内容次第では、仮に送金規制が解除される場合でも、一定の回収不能額が生じる可能性があります。

<送金ルートの確保について>

本営業者はロシアの弁護士事務所と連携して代替送金方法を検討しています。現時点では、ロシアからの海外送金についてロシア中央銀行の特例的な承認を得る方法を第一選択肢として検討しています。

1. 出資対象事業の概要

ご投資いただいた出資金の用途

(i) 本ファンドにおいてクラウドクレジット・ファンディング合同会社（以下「本営業者」といいます。）は、お客様にご投資いただいた出資金をクラウドクレジット株式会社のエストニア子会社（Crowdcredit Estonia OÜ。以下「エストニアグループ会社」といいます。）に対して貸付けを行いました。

(ii) エストニアグループ会社はこの借入金を原資として、キプロス共和国に籍を置く金融事業者である LIME CREDIT GROUP LIMITED (以下「LIME 社」といいます。)へ貸付けを行いました。

(iii) LIME 社への貸付けに対しては、LIME 社グループの中核企業である MICROFINANCE COMPANY “LIME-ZAIM” (LIMITED LIABILITY COMPANY)社 (以下「LIME Russia 社」といいます。)が債務保証を行っています。

2. LIME 社グループの現状

(1) 事業活動地域

LIME 社グループはロシア、南アフリカおよびメキシコで個人向けの短期ローンを取扱う金融事業者グループで、ロシア事業がグループ収益の大半を占めます。

(2) LIME 社グループを取り巻く状況

グループ収益の大半を占める LIME Russia 社は、ロシアによるウクライナ侵攻直後は個人向けの融資実行の大幅な絞り込み、事業拡大を前提としていた経営計画の見直しなどに着手していました。ウクライナ侵攻から約 8 か月が経過した現時点においては、当初想定したほどロシアのマクロ経済環境の悪化が深刻でなかったことから、徐々に事業運営を正常化しています。

また、資金調達については、エストニアグループ会社をはじめロシア国外の債権者からの融資がすべて停止されていますが、代替手段としてロシア国内の銀行借入れなどを確保し事業運営資金に充当しています。

(3) LIME 社グループの為替リスクの状況

LIME 社グループは、本ファンドシリーズをはじめ一定の外貨建て債務を抱える一方、収益の大半をロシアルーブル建てで計上しています。現時点ではロシアルーブルの対ユーロ、対円などのレートがロシアによるウクライナ侵攻直前よりも高い水準にありますが、今後ロシアルーブルが下落に転じる場合、外貨建て債務の実質的な返済負担額が増し債務返済能力が低下する可能性があります。

(4) LIME 社グループの今後について本営業者の見解

現時点では、ウクライナ侵攻直後に想定したほどロシアのマクロ経済環境と LIME 社グループの財務内容が悪化しておらず、侵攻前と同様の規模で事業運営を継続すると見込んでいます。また、ロシア国内での資金調達によって当面の資金繰りに関する懸念も後退したと捉えています。

しかし、ウクライナの戦局や日米欧をはじめとする各国の対ロシア経済制裁の動向が流動的ななかで、LIME 社グループの事業環境が悪化に転じる場合やロシアルーブルの対ユーロ、対円でのレートが下落に転じる場合には、一定の回収不能額が生じる可能性があると考えます。

3. 送金規制の影響および代替手段について

(1) ロシア国内の送金規制の状況

ロシアからの海外送金は広範に規制されています。特に、ロシアの非友好国に向けての送金は厳しく規制されています。ただし、本項(2)に後述のとおり、ロシアに籍を置く法人が所定の条件を満たす場合には、送金先が非友好国であっても、月額 1,000 万ロシアルーブル(日本円で 2,000 万円相当額※)を超える海外送金が特例的に認められる可能性があるため、本営業者はその方法を検討しています。

※ロシアによるウクライナ侵攻後、ロシアルーブルの相場は大きく変動しており、1 ロシアルーブル=2.00 円で仮置きしたレートを元に計算しています。

(2) 送金規制を踏まえた代替のルートについて

本営業者はロシア現地の弁護士事務所を起用して送金ルートを検討しています。これまでのところ、弁護士事務所から、所定の条件を満たせば月額 1,000 万ロシアルーブルを超える海外送金が特例的に認められる可能性があるとの見解を得ました。ただし、ロシア政府が非友好国に指定する国への送金では政府の事前承認が必要となり、提出書類のほか承認プロセス自体が煩雑なこともわかりました。

本営業者はその弁護士見解を踏まえて、LIME 社グループロシア法人の LIME Russia 社が持つ資金を同キプロス法人の LIME 社を介してエストニアグループ会社へ返済する従来通りの送金経路を使用し、ロシア中央銀行から特例的な承認を得る方法を第一選択肢として、LIME 社グループや弁護士事務所と連携して、回収を図っています。

(3) <参考>その他の送金方法検討について

本営業者は、以下の選択肢も同時に検討しています。しかし、ロシア国外でロシアルーブルを受取る口座を新規開設するのが困難なことや、送金規制の抜け道と捉えられうる手段を利用すると LIME Russia 社が金融事業者の許認可を取り消される可能性などを懸念し、上記(2)のルートを現時点での第一選択肢としています。

- ・キプロス法人の LIME 社がロシアルーブル受取り銀行口座を開設し、その口座を通じて返済
- ・非友好国に該当しない国（南アフリカおよびメキシコ）にある LIME 社グループ法人を通じて返済
- ・銀行以外の送金業者の決済サービスや暗号資産を通じた送金

4. 今後の返済見通し

ロシア軍のウクライナ侵攻開始から約 8 か月が経過した現時点でも、特にロシア政府およびロシア中央銀行による送金規制の影響のために、返済開始時期が不透明なままです。本営業者はロシアの弁護士事務所と連携し、ロシア中央銀行の特例的な承認を受けてロシアから海外送金する方法等での回収を検討していますが、回収時期の見通しが立っていません。

なお、送金規制の解除や代替案の実行によって回収が可能となる場合でも、LIME 社グループの事業環境次第では、一定の回収不能額が生じる可能性があります。



本営業者は 3 か月に一回程度を目安に本ファンドシリーズの最新状況をご報告申し上げる予定です。ただし、本営業者の判断で、3 か月を待たずにすみやかにご報告する場合がございます。投資家のみなさまにおかれましては、ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

会社概要（クラウドクレジット・ファンディング合同会社）

【代表社員】 クラウドクレジット株式会社

【設立年月】 2016 年 3 月

【資本金】 1,000,000 円

【住 所】 東京都中央区日本橋茅場町一丁目 8 番 1 号